

聴覚フェスティバル 2025 企画書

作成日:2025年5月10日

作成者:聴覚フェスティバル2025準備委員会

1. イベント名称

聴覚フェスティバル 2025 ～ 多様な「聞こえ」でつながる世界（仮）～

2. 目的・趣旨

聴覚障害当事者の「聞こえ」そのものや、その活用の仕方の多様さを認め合い、それぞれの経験を共有しながら、情報保障・表現・技術・教育・社会参加の可能性を広げる。当事者・家族・支援者・研究者・一般の参加者が一堂に会し、「交流」「学び」「気づき」「発信」の場を創出することを目的とする。

3. 開催概要

日時:2025年9月15日(月・祝) 10:00～17:00(予定)

会場:武蔵野大学 武蔵野キャンパス

(〒202-8585 東京都西東京市新町1-1-20)

主催:聴覚フェスティバル実行委員会

*本イベントは武蔵野大学しあわせ研究所の支援を受けて開催いたします。

4. 対象者

・聴覚障害当事者

*失聴時期、障害の程度、補聴機器装用の有無、コミュニケーション手段は問わない

・APD(聴覚情報処理障害)当事者

・聴覚障害児・者を育てる保護者、ご家族、パートナー

・教育関係者／医療・支援専門職

・一般参加者／学生

・聴覚障害のある人と聞こえる人との橋渡しを模索するすべての人

5. 主な企画内容

1)特別企画 ※リアルタイム配信有

マンガ『淋しいのはアンタだけじゃない』の世界から考える多様な聞こえ・コミュニケーション

ゲスト:吉本 浩二 氏 (漫画家)

対話者:志磨村 早紀 (武蔵野大学 専攻科(言語聴覚士養成課程) 助教)

2) 当事者カフェ(仮)

- 当事者同士の交流を目的とした、少人数で対話するクローズドな場の提供
- 言語聴覚士をはじめとした専門職のファシリテートの下、自身の聞こえ、他者の聞こえを見つめ、思いを共有することを目的とする

3) 展示・技術紹介ブース

- 補聴器・人工内耳・情報保障機器(アプリ・Bluetooth システムなど)等の展示
- 教育・福祉・地域での取り組み紹介など

4) 「聞こえの説明書」作成ワークショップ

- 自身の聞こえやコミュニケーション、聞こえにくさからくる困難さを見つめ、整理し、他者に伝えることを目的とした「聞こえの説明書」を作成するワークショップ

5) オープンカフェ(仮)

- 障害の有無、属性に関わらず、来場された全ての人が入り出りできる開かれた対話の場

6) 子ども向け企画

- 子どもたち(未就学児～小学生を想定)を対象としたミニプログラム

6. タイムスケジュール(予定)

9:30 受付開始

10:00 開会・挨拶

10:15-11:30 特別企画

11:30-13:00 お昼休憩・展示見学・「聞こえの説明書」作成ワークショップ①

13:00-15:00 当事者カフェ(仮)・「聞こえの説明書作成」ワークショップ②

15:30-16:15 当事者カフェ(仮)参加者からの報告

16:15-16:30 クロージング

※展示ブース・オープンカフェ(仮)は 10:00～15:30 の時間にて設置

7. 期待される効果

- ・聴覚障害や聞こえの多様性への理解促進(啓発)
- ・当事者同士、また当事者と支援者・一般参加者との新たなつながりの創出
- ・テクノロジー技術と当事者個人の感覚が交差する可能性の体感
- ・聞こえにくさの中にある「豊かさ」や「感性」の発見、気づき

(ご参考)前回の開催報告・実績は下記リンクよりご覧いただけます。

「聴覚フェスティバル 2023 を開催しました」(武蔵野大学 Web サイト)

<https://www.musashino-u.ac.jp/news/detail/20231214-1629.html>

*聴覚フェスティバル 2023 参加者数:298 名(現地 217 名、オンライン 81 名)



QRコードからも
ご覧いただけます

8. 広報計画

- ・SNS・ウェブサイトを通じた発信
- ・当事者・支援団体とのネットワークによる案内拡散
- ・教育機関・医療機関等へのチラシ配布
- ・一般向けメディア・ローカルメディアへのプレスリリース

9. その他

- ・情報保障(文字通訳・手話通訳・音声認識アプリ等)は全面的に導入
- ・会場のアクセシビリティ確保(要相談)
- ・運営スタッフは聴覚障害当事者、言語聴覚士をはじめとした専門家より構成

以上

<本件に関するお問い合わせ先>

聴覚フェスティバル 2025 実行委員会 事務局

武蔵野大学 人間科学部 人間科学科

専攻科(言語聴覚士養成課程)

助教 志磨村 早紀

E-Mail:sa-shima@musashino-u.ac.jp